

コロナ禍の学校・家庭の子どもの変化、新たな不登校の問題

2021・5・8 教育センター 倉本 頼一

1. 子どもの現状 思いから

「7時間授業」

6年 女子



7時間じゅ業になって約一ヶ月たちました。

はじめは とつつかれました。前より 帰る時間が早いのに、ひさしぶりの学校でまだ 体が なれていませんでした。できることもかぎられていて、

すこしいやでした。でも最近、前よりも疲れがとれて、この生活に慣れてきました。

毎日が楽しく、友達と会えるのがいつもうれしいです。

はじめは、大丈夫かな？このクラス、とっていました。

でも 今は、みんなと少しずつ話すことができます。とても毎日がたのしいです。

(京都市つづり方の会 T氏 実践報告より)

一昨年の2月に突然全国一斉休校になってから 子どもたちは異常な生活におかれました。3学期の終わりのまとめもなく、新しい学年が「分散登校」ではじまり、子どもは不安でいっぱいでした。短い文章ながら 子どもの本音とつぶやきが、表現されています。遅れて始まった一学期は 初めての「分散登校」。そして みんながそろろうと、さっそく「遅れを取り戻す」7時間授業。「体が慣れていません」「すこしいやでした」それでも「長いコロナ休み」で子どもは 家の中に閉じ込められ「友達に会えなかった」ので「友達と会えるのがいつもうれしいのです」勉強嫌いの子どもでも、学校は友達と会え、遊べるのが うれしいのです。「7時間授業は やめよう 遅れはゆっくり取り戻すこと」と方針を 変えた教育委員会や学校が増えてきました。それでも「マスク」「友達との距離」に気を配る学校生活は 依然とは違う 息苦しさや 緊張は残っています。遅れて始まった学年初め 組変えの新学期にも慣れてきて「はじめは 大丈夫かな？」とと思っていた新しいクラスの友達とも「今は 少しずつ話すことができ」て「とても」は無理してませんが「毎日がたのしいです」と結んでいます。前思春期の高学年の女子の思いが 率直に表現されています。

2. 19年度不登校京都府内8年連続増加、全国では過去最多18万人

コロナ禍の前年度19年の「京都府・不登校・人数」が「不登校 府内8年連続増」「小中生・全国で過去最多18万人」(20年10月23日 京都新聞)は、重要なことです。コロナ禍によって学校教育が大きな影響を受ける前年です。「不登校増加」は19年が過去最多の人数になっていたのです。京都府下では「8年連続増加」で「全国では過去最多18万人」だと報道されたのです。不登校に対する取り組みは全国の福祉・教育・学校現場で3

0年以上力を入れた対策が進められてきました。また不登校に対する認識もずいぶん変化し変わってきました。当初の「本人のなまけ・家庭の無理解」から「誰にでも起こる可能性」「登校刺激を機械的にしない」へと変わり、「スクール・カウンセラー、教育相談」の役割が進み「適応指導教室」などの福祉充実が強められてきました。

しかし 京都府下で8年間連続増加、全国では「過去最多18万人」という現実が深刻です。京都府下では小学校は248人増加(34・3%)の970人、中学校は前年度より162人増加(6・7%)の2430人のというのです。この増加は異常です。日本と京都の教育で「学校教育にとって不登校問題は重要課題」あることが はっきりしています。「コロナ禍での教育問題」の前年で「最多」になっている現実を 忘れてはなりません。不登校問題が深刻な状態の中で日本の学校教育は コロナ問題を 迎えたのです。

3. 子どもの自殺 最多476人 コロナ禍の昨年「休校明けに増加」

「虐待被害最多2172人」そして「京都府内いじめ14%減9475件」

コロナ禍の教育問題で最も衝撃的な問題は 子どもの「自殺問題」です。

「自殺者11年ぶり増加 20年21081人 女性と子ども押し上げ」(2021・3・17毎日)「小中生の自殺過去最多 20年499人、コロナ影響か、前年度比100人増加」(3・10・京都)

「児童生徒の自殺 最多479人 コロナ禍の昨年 休校明けに増加」(2・6 朝日)

前年度比4割増で過去最多であったと、文部省は報告しました。特に女子高校生は138人と倍増しています。コロナ禍の長期休暇あけの6月や8月に多かったという。(朝日) 小学生14人中生は146人。原因・動機では「うつ病」などの精神疾患や進路の悩み、学業成績不振が多かったという。子どもの自殺の報道で「いじめはなかった」で報道が終わってしまうことが多い。世界でも日本の子どもの自殺が多い問題は 注目が集まっています。

自殺と 同じく増えているのが「児童虐待」です。「昨年の児童虐待 最多2133件 コロナ休校時 増加目立つ」(2021・3・1毎日)「児童虐待被害最多2172人 昨年61人死亡5226人保護」(赤旗 2021・3・14)「虐待被害児童 最多2172人 20年 外出自粛で見守り減少」(2021・3・16 京都) コロナ禍の虐待の増加は何より「親の生活困窮」にあり「ストレスをためた 親の暴力」が社会問題化しています。

唯一減少したと報道されているのが「京都のいじめ事例」です。「府内いじめ14%減 9475件」(2021・2・26、京都)これは 当然です。「マスク」「友達との距離・触れ合わない」指導の中の現状です。コロナ以前の19年度では「いじめ61万件最多更新 文部省、教員の早期介入定着 重大事態も2割増」(10・23・京都)この統計には疑問があります。児童千人当たり最多は宮崎県で122・4件、最小の佐賀県は13・8件と9倍近くの違いがあるのです。「いじめ調査」は府県教委の基準に違いがあって数字だけでは判断ができません。

「不登校が過去最多の人数になっている」背景には 以上のような「子どもの自殺が増えている」「虐待が過去最多」「いじめ事例が過去最多」「不安と生活困窮が増えている子どもの家庭」と現代の不登校問題は「コロナ禍の社会・家庭変化」が複雑に関連しています。